

東京都立日野高等学校長
米 山 琢 児

I 目指す学校

1 教育目標

- (1) 自主・協調の精神を養う
- (2) 知性を高め、体力の向上を図る
- (3) 豊かな心を培う

2 目指す学校像

(1) スクール・ミッション

選択科目を充実させ、一人一人の進路希望に則した丁寧な指導を行うことで、進路の実現を目指します。学習活動を通じて自ら進んで学び、体力の向上を図ることのできる生徒、学校行事を含めた日々の生活の中で、自主性や協調性の精神を養うとともに、他者の気持ちに寄り添うことのできる豊かな心をもった生徒を育成します。

(2) スクール・ポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

※すべての教育活動を通して、次の3つの能力の伸長と獲得を目指します。

- 自分の長所・短所を理解し、よりよい人生を生きようと前向きに努力する力
- 何事にもあきらめずに分析や考察を行い、柔軟な思考で課題解決に向き合うことのできる力
- 社会人としてのルールやマナーを遵守し、周囲と誠実に向き合える力

② カリキュラム・ポリシー

- 基礎学力の確実な定着を図り、多様な選択科目から、自らの進路や興味関心に応じて学びを深めることで、生徒一人一人の進路の実現を目指す。
- 体力の向上、感性の高まり、実生活の課題解決力を育み、未来を生き抜く力を目指す。

③ アドミッション・ポリシー

- 本校への入学を強く希望し、日々の学習に真剣に取組み、学力向上を目指し、常に努力を惜しまない生徒
- 中学校において、生徒会活動や部活動、その他学校内外の活動等に積極的に取組んできた生徒で、入学後も継続して活動する意志のある生徒

II 中期目標と方策

1 生徒の基礎学力向上、情報教育の推進を図り、GMARCH以上の大学合格実績の増加

生徒の基礎学力を高め、GMARCH以上の大学合格実績を向上させる。その一環として、デジタル技術や探究活動を活用した教育の推進を行う。また、学期中や土曜活用日及び夏季、冬季休業日中の補習、補講を充実させる。更に、教員の資質・能力を向上させるために授業公開や教員相互の授業参観、校内悉皆研修（DX、探究推進、生徒総合支援研修会）、学校評価等を活用する。

2 生徒の第一志望進路への諦めない進路指導の推進

生徒の第一進路希望を実現するために、三年間の展望を見通した系統的な進路計画を策定し、進路情報や指導内容の共有化を図った組織的な指導体制を構築する。更に、探究的な取り組みを組織的に充実させ、探究活動や情報授業を活用した進路開拓を推進する。また、保護者対象の講演会や保護者会、三者面談等の実施等、家庭と一体となった進路指導を進める。

3 交通安全教育の徹底と基本的な生活習慣と規範意識の涵養

命にかかわる交通安全に関心を持たせ、自転車ヘルメットの着用を積極的に指導する。また、

生徒の基本的な生活習慣と規範意識を涵養するために、校内で共通した指導内容による組織的な生活指導を実践する。特に、挨拶の励行、頭髪や服装等の身だしなみ、遅刻防止指導の徹底等、社会的なマナーの主体的な育成指導を重視する。併せて、教職員による日常の生徒の状況把握や情報の共有化によるいじめ防止、自殺防止に向けた生命尊重の精神や態度の育成、情報モラルの育成及びよりよい生徒同士の人間関係の形成を外部機関と連携し、組織的かつ継続的に図る。

4 自主性や協調性、責任感を高める特別活動及びガイドラインに沿った部活動の振興

生徒会活動や学校行事、委員会活動、部活動等は、ガイドラインに沿った教員の組織的な支援体制により、生徒に成功体験を得させ、自主性や協調性を育成する。また、日野市教育委員会、近隣小・中学校や特別支援学校との研究活動や交流活動を積極的に推進する。

5 体力づくりと健康・総合安全教育の充実による安心・安全な教育活動の推進

地域や関係機関と連携した防災教育、交通安全指導を推進する。また、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考とし、「体力テスト」の結果に基づいた体力向上に向けた取組を全校体制で推進する。さらに、総合生徒支援委員会やシニアスクールカウンセラーやスクールカウンセラーとの連携による相談・支援体制を充実させる。

6 広報・募集活動の推進

総務保健部を中心とした組織的な広報活動や募集対策を推進する。とりわけ、新設ホームページの更なる工夫と活用やコンディションレポート、保護者コミュニケーションシステムの導入、X(旧公式Twitter)、SNSの利活用により外部に充実した情報発信を積極的に行い学校の魅力を発信する。また、近隣の中学校や塾、関係団体が主催する進学説明会へ積極的に参加するとともに、生徒のアンケートを基にした塾説明会を初めて開催する。長期休業日や平日の学校見学会をより頻繁に開き、内容を充実させる。

7 地域との連携を深める取組

近隣諸学校、施設連携や地域行事等へのより積極的な参加を促し、探究活動に発展させながら、地域の清掃活動等のボランティア活動を推進する。

8 学校経営・組織体制の活性化

会議の効率化等の働き方改革を推進し、教員のライフワーク・バランスの実現のために、効率的な業務の遂行により努める。また、学校評価を活かして、教育課題に対応した適正な予算編成及び執行を行う。さらに、改築を機に今後、生徒一人一人に応じたきめ細かな教育環境の整備を推進し、未来の東京を担う人材を育成する学校経営の在り方を検討していく。

III 今年度の取組目標と方策

1 「学習指導」

- (1) 「考えさせる授業」をすべての教科で実践し、生徒の思考力を高め、判断力、表現力を養う。
- (2) 文部科学省DXハイスクール推進事業及び新教育課程の整備、観点別評価の研究・統一化
生徒がデジタル環境を効果的に活用した学びや、学習履歴等のデータ分析・利活用、先端技術の活用に関する実践的な研究を実施して効率的な学習が進められるよう、各教科単位で端末の活用方法について研究を行うとともに、観点別評価について校内で統一化を図る。
- (3) 大学入試改革対応策としての土曜日活用と各種検定等積極的な指導推進
大学入試改革への対応の一環として、土曜日を活用し、各種検定等の指導を行うと共に、実用英語技能検定試験準2級以上の合格者をより増加させる。
- (4) 新学習指導要領及び探究的な学びの整備に向けた校内研修の実施
探究的な学びの充実を図るため、教員相互の授業参観、若手教員や中堅教員研修の公開授業を活かした計画的な各教科の研修及び学校全体での校内研修を実施し、新学習指導要領について理解を深め、探究活動を取り入れた指導法の工夫、改善に組織的に取り組む。

(5) 地域自然環境教育の効果的な実践

地域自然環境と展望台設備を活かした地域自然環境教育の充実を目指し、地域と連携した探究的な取り組みを全校で組織的・計画的に実践し、予算配分する。

2 「進路指導」

(1) 補習・補講の実施

各学年が主体となり、地域校外施設なども活用し、平日や土曜活用日、長期休業期間中の進路対策や学習が遅れがちな生徒を対象にした補習・補講を組織的・計画的に実施する。

(2) 組織的、系統的な進路指導

第一志望の進路希望の実現に向け、校内及び家庭との情報を積極的に共有し「進路の手引き」を活用した系統的な年間進路計画に基づいた指導を推進する。

指導と評価の一体化を進め、進路データを蓄積し、本校の進路指導の基盤を構築する。

(3) 探究活動と情報科の授業を活かした大学入試改革への対応

大学入学共通テストをはじめとした大学入試の動向を分析し、大学入試改革に向けた対応を図ると共に、探究活動や情報Ⅰ、Ⅱを活かした入試制度にも選択の幅を広げ指導・充実をより積極的に図る。

(4) 高い目標への挑戦意欲の育成

文部科学省D×ハイスクール推進事業校としての成果を活用すると共に、進路適性を的確に判断するために、学習履歴等のデータ分析・利活用、先端技術の活用に関する実践的な研究の結果を分析することにより、データに基づいた効果的な進路指導を実践する。

(5) 保護者との情報の共有

保護者会や進路啓発講話、三者面談の実施やホームページ・SNS等の活用により、保護者との情報の共有化を図り、家庭との連携をより深めた進路指導を推進する。

(6) 体験的学習と進路講話

生徒が適切な進路選択が行えるよう体験的学習（上級学校訪問や大学等の体験授業、職場体験等）や大学教員や学生、企業等の講師による進路講話等を積極的に活用する。

3 「生活指導」

(1) 交通安全教育の徹底、ルールやマナー及び情報モラルを遵守する指導

本校の生徒指導方針に基づき、指導内容の共通理解を図り、授業や集会等あらゆる場面で時間と安全を意識した行動を徹底させ、授業や集会における規律、ルールやマナーを遵守する指導を組織的に行う。また、命にかかわる交通安全に関心を持たせ、自転車ヘルメットの着用をあらゆる機会積極的に使用するような指導の工夫を行う。家庭とも連携して携帯電話や一人1台端末を適切に使用するための情報モラルの育成をより図る。

(2) 身だしなみの指導

頭髪や服装などの身だしなみについて、行事や進路活動時の統一した基準で年間を通して計画的、継続的に指導する。普段の学校生活においては生徒の意見を取り入れた柔軟なルールの適用も検討・指導する。

(3) 遅刻防止及び盗難防止指導

家庭と連携し、遅刻防止指導を重点的に推進し、3割減少を目指す。また、スクールサポーターの巡回など外部機関との連携を進め、盗難防止指導等を徹底する。

(4) いじめや自殺防止の対応

教員、保護者、生徒向けの研修や生徒総合支援機能を充実させ、体罰、性暴力、不適切指導の禁止、いじめの未然防止・早期対応や自殺防止に関する情報の共有を組織的に図ると共に、アンケートやSC相談等を活用し早期発見に努める。

いじめ等が発生した場合は、学校いじめ対策委員会など、組織として素早く対応し、外部関係機関、弁護士等の専門家とも連携した積極的な解決を図る。

4 「特別活動・部活動」

(1) 特別活動の充実

生徒の意欲的な取組を支援し、体育祭、文化祭、合唱祭の学校行事や修学旅行等の学年行事、生徒会活動、委員会活動を共に創りながら取組を継続させ、より充実を図る。

授業等で養った思考力、判断力、表現力を学校行事や部活動、ホームルーム活動等のあらゆる場面で活かし、帰属意識の向上を図る。

(2) 部活動の充実

ガイドラインに明確に基づいた部活動を推進する。部活動への生徒加入を奨励する。活動時間内での創意工夫を生徒に促すとともに学習も疎かにしない態度を育成する。運動部・文化部活動の意欲的な推進を目指す取組を基盤として、運動部・文化部共に全国大会を目指し、活動の充実を図る。その成果を部活動発表会で中学生、地域等に積極的に発信していく。

(3) 近隣関係学校との交流

日野市内中学校を主に対象とした「日野カップ」等を実施すると共に部活動や生徒会活動における近隣小・中学校や特別支援学校、大学等との交流を定着させ、更に充実させる。

Tokyo-IBL ハイスクール事業の指定校を通して高校間で連携した協働的な探究学習や、小・中学校等との交流による地域課題等への探究活動に取り組む。

5 「体力向上と健康づくり」

(1) 体力テストを活用した体力向上

「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考とし体力テストの結果を活用した体力向上に向けた取組をICTの活用を図り推進する。体力向上の取組は学校2020オリンピック・レガシーとしていく。

(2) 健康・安全に留意した実践的な態度の育成

地域合同防災訓練や避難訓練の効果的な実践指導計画や心身の健康に関わる健康講話、交通安全教室の実施により、生涯に渡って主体的に健康・安全に留意した生活習慣を身に付けさせる。また、自転車の通学時のヘルメット着用等命にかかわる安全を最優先に考えることができるよう指導及び取組み体制を強化する。

(3) 校内美化・清掃の徹底

リサイクルの徹底やゴミの分別、持ち帰り、行事前等の全校美化週間設定により、学校生活における環境を整理・整頓し、校内美化・清掃の徹底を図る。

6 「広報・募集活動」

(1) 新設学校ホームページと日野高ニュース、X（旧公式Twitter）とSNSの活用

新しい学校ホームページの内容を充実させるために、ホームページ内の日野高ニュースやほぼ毎日更新しているX（旧公式Twitter）、SNSの活用により、学習や行事の様子、部活動の成果やお知らせを積極的に情報発信し、学校の魅力や強みをアピールする。

(2) 本校への志願者を増やす取組

生徒主体の学校説明会の実施や出張説明会、模擬授業や部活動体験、中学校への出前授業、学習塾訪問や塾説明会を計画的、効果的に実施すると共に、業者作成の学校動画や新校舎写真データ等を有効活用し、広く学校の強みの周知を図ると共に、文化祭や学校説明会への来校者を増やす取組の充実を図る。

7 「地域連携」

(1) 地域と連携した探究活動やボランティア、近隣清掃

天文台の活用を積極的に図ると共に、地域の施設や日野市教育委員会、地域の小・中学校と連携した探究活動を推進する。また、通学路などの近隣の清掃を学期に1回実施し、積極的に地域に奉仕する。

(2) 地域行事や関係学校行事への参加

部活動や生徒会等による地域行事への参加や近隣の小・中・高・特別支援学校、大学等との共催行事等を積極的に計画し、学校全体での参加の機会を新たに設定する。

8 「学校経営・組織体制」

(1) 服務事故の防止

いじめの未然防止、早期発見、早期対応に対する認識や生徒支援の考え方を悉皆研修により統一した内容で指導できるようにする。教職員による生徒に対する不適切指導や暴力（性暴力を含む）、暴言等の未然防止、個人情報保護や流失防止、生徒の答案の誤廃棄など、事故防止に向けた分掌や学年、教科、部活動等あらゆる指導場面での複数人による複数回の組織的対応により服務事故防止の徹底を図る。

(2) 業務縮減及び働き方改革の推進に向けた取組

委員会等組織の改編・見直しや会議のオンライン・ペーパーレス化等で効率化を図り、業務縮減に向けた取組を推進する。また、自己申告面接等を通して、服務・勤務状況を確認するとともに、15日以上の有給休暇や男性職員の育休等の取得を進め、メリハリをつけた働き方改革を推進する。

(3) 特別支援教育の充実

関係機関や近隣の特別支援学校・拠点校との情報の共有化や連携については複数配置した特別支援コーディネーターを中心に分担し、支援の内容を深め、組織的な特別支援教育を推進する。また、相互に学校運営連絡協議会委員となりお互いの学校理解を促進する。

(4) 経営企画室、その他

教育職員と連携した教育活動をとおして経営企画室の経営参画力向上を図る。予算編成、執行等ではセンター執行率を増加させ、特別予算を適切に運用する等コスト管理を進める。

グラウンド改修期間を通して生徒、教職員の安心・安全な学校生活の確保へ、施設・設備の警備・点検・整備を日々徹底する。新校舎の空き教室活用、清掃・整備にあたっては、円滑に進むよう総務保健部と連携し、複数年掛けて、組織的な調整を図る。

IV 今年度の重点数値目標（下記の数値は、令和5、6年度の実績数値である。令和7年度は2年間の平均値または2年間で最大の値を超えることを目標とする。）

※各項目：上段令和5年度数値

下段令和6年度数値 → 令和7年度数値

1 生徒募集

(1) 入選中進対倍率 1.77倍 (2) 入選推薦募集倍 4.33倍
1.45倍 → 1.61倍 3.38倍 → 3.86倍

(3) 入選一次募集倍率 1.65倍
1.47倍 → 1.56倍

2 大学等進学実績

(1) (GMARCH) (2) (成成明武)
現役合格者数 11名 現役合格者数 11名
8名 → 15名 6名 → 13名

(3) (日東駒専) (4) 進路決定率 89%
現役合格者数 40名 90% → 93%
46名 → 50名

